

日タイ修好 120 周年記念特別企画展示



『日タイ交流 600 年』

< 概要 >

今年は、日タイ修好 120 周年という祝いの年にあたり、バンコクを中心にタイでも様々な祝賀イベントが開催されています。日タイの交流の発祥地でありますアユタヤにおいても、『日タイ交流 600 年』と題した特別企画展示を 7 月より開催いたします。

アユタヤ県と JICA (独立行政法人国際協力機構) の共催による今回の特別企画展示は、アユタヤの歴史を学ぶ博物館であります、アユタヤ歴史研究センターで開催します。特別企画展示では、日タイ修好宣言書、600 年以上に渡る日タイの交流の歴史、日タイ友好の架け橋となった人々、日タイ皇室、王室交流の歴史、日タイの経済・開発協力についての展示を行います。約 1 年に渡りました日タイ両国での取材・資料収集をもとに、見応えのある展示内容となっています。常駐の日本人スタッフがいますので、ご質問などございましたらお尋ね下さい。

日タイ修好 120 周年という記念すべき年に、是非日本とタイの長きに渡る友好の歴史が織りなした、素晴らしいエピソードの数々を知っていただけたらと願っています。

< 特別企画展示の開催期間 >

2007 年 7 月 21 日 (土曜日) ~ 12 月 31 日 (月曜日)

開館時間 9 時 ~ 16 時 30 分

年中無休

< 開催場所 >

アユタヤ歴史研究センター

アユタヤ歴史研究センターは、多くの遺跡が残るアユタヤの島の中に位置しています。お越しの際の目印としては、隣にアユタヤ・ラチャパット大学、斜め向かいにはチャオサンプラヤー国立博物館がございます。

住所

Ayutthaya Historical Study Center (アユタヤ・ラチャパット大学横)
Rojana Rd, Pratuchai Sub-district, Phranakhon Sri Ayutthaya District,
Phranakhon Sri Ayutthaya Province. 13000.

Tel: 035-245-123

展示概要

日タイ修好 120 周年特別展について：

「日タイ修好宣言書」について、その価値と意義、特別展に関する祝辞など。

*1887年9月26日に調印されたこの宣言は、日タイ両国が国交を結び、通商・航海を奨励し、将来の条約をもって詳細を規定するという簡単で抽象的な内容のものでしたが、これは明治の日本政府が東南アジア諸国と外交関係を結んだ最初の条約であり、1898年に調印された「日タイ修好通商航海条約」締結への基礎となるものでした。

日タイ交流 600 年史：

アユタヤ王朝期の琉球船・御朱印船貿易から、現在まで。

*東南アジア諸国と沖縄との交渉を記録した『歴代宝案』によると、600年以上前から既に沖縄とタイ(シャム)との交流は開始されています。沖縄を介して様々な物資が日本とタイ両国を行き来しました。そして、西暦1609年～1630年までの御朱印船の対タイ交易、最盛期には約1500人近くを数えたアユタヤ・日本人町と山田長政などの活躍は日本でも広く知られている事実です。さらに、日本の鎖国時代においても、アユタヤからの貿易船は「唐船」として理解され、日・タイの貿易は継続されました。

明治時代には、「日タイ修好宣言書」、「日タイ修好通商航海条約」の締結によって、両国の国交が正式に樹立され、様々な日本人顧問がタイの近代国家建設のために活躍いたしました。太平洋戦争終結後に途絶えていた両国の国交も、1952年4月のサンフランシスコ講和条約による日本の独立・主権の回復によって再開され、53年にはタイ国日本人会の再建、55年にはピブン首相が日本を、57年には岸総理がタイを公式訪問しています。戦後の日本政府が、タイに対して有償・無償資金及び技術協力を実施し、タイの経済発展に大きく寄与するとともに、タイの政治的安定性と教育水準の高い労働力、そして市場へと変化する近年のタイに魅かれた多くの日本企業がタイに進出しており、経済面での両国の関係性はまことに緊密であるといえます。さらに、1970年に1万3千人に満たなかった年間のタイへの旅行者数は、2004年には120万人以上に成長し、毎年開催されている「タイ・フェスティバル」には多くの日本人が足を運び、文化面での交流も非常に活発となっています。

日タイ友好の架け橋となった人々：

日タイ友好の架け橋となった偉人、タイに暮らした日本人の個人史。

*日本とタイの友好の架け橋となった偉人やタイに暮らした日本人を取り上げ、ミクロ・レベルでの日本とタイの関係について展示します。具体的には、タイの近代法成立に尽力した司法顧問政尾藤吉、女子教育のためにタイ政府に雇われた、後の東京女子大学創設者である安井てつ、タイ養蚕業振興のために渡タイし、後のカセサート大学の前身である養蚕学校を開設した、日本人養蚕技師達、日本人医師としてタイで活躍された三谷

足平氏、瀧川虎若氏などです。さらに『シャム・ラオス・ベトナム三国探検実記』を記した岩本千綱などユニークな経歴のタイに暮らした日本人を取り上げます。

日タイ皇室・王室の交流の歴史

皇室・王室の緊密な交流の一例として、天皇によるタイへのプラーニンの養魚技術移転や、ラーマ 6 世、7 世の日本訪問、現国王陛下と天皇陛下の両国公式訪問などについて、写真などを用いて説明いたします。昨年国王陛下即位 60 周年祝賀式へのご参列のためタイをご訪問なされた天皇・皇后両陛下が、アユタヤ歴史研究センターにお立ち寄りになられた際の写真も展示する予定であります。

日本の対タイ ODA について：

対タイ ODA の過去に培った実績と、「中進国タイ」との新たなパートナーシップについて。

*対タイ ODA 及び JICA 事業について、その歴史、実績などについて視覚資料を用いてわかりやすく説明いたします。タイに対しては、スカイトレインや地下鉄、チャオプラヤー川の橋梁といったバンコクでの ODA 実績のみならず、タイ全国において、さまざまな分野での協力が実施されてきました。

***** 日泰修好 120 周年記念特別ビデオの上映 *****

*期間中、ビデオ・ルームにおいて、展示内容に沿ったビデオ番組の上映を行います。

日本語のお問い合わせ お気軽にどうぞ

前田悠 (JICA 青年海外協力隊員)

Mobile: 087-103-2830

joepassjim@hotmail.com

服部一人 (JICA シニアボランティア)

Mobile: 086-096-8307

mpakapower@hotmail.com